

福島浜通りと首都圏の中高生による参加型対話の課題と成果

(3) 甲状腺検査を巡る中高生による「白熱教室 2016」一生徒の提言と今後の課題—

Agendas and Issues of Participatory Dialogues by Junior-High and High School Students from Fukushima
Hama-doori and Capital Area

(3)"Exciting Class 2016" by Junior- and High Students on Thyroid Screening Test

- Students' Proposals and Next Issues—

*中山 知恵子¹, 木村 菜摘², 澤田 哲生³

¹神大附属中高, ²東北大, ³東工大,

中高生を主体とする「白熱教室 2016」を開催した。福島県浜通りの高校生と首都圏横浜市の中高生合計 12 名が、「甲状腺検査って・・・どうなんだろう？」のテーマのもと、参加型対話を実施した。その結果、3 項目の提言がなされた。1) 甲状腺検査の分かりやすい説明 2) 放射線教育の充実 3) 情報発信の機会の醸成。

キーワード：白熱教室，甲状腺検査，中高生，参加型対話，放射線教育

1. 緒言

甲状腺検査をテーマとした「白熱教室 2016」であったが、対話が進むに連れてその背景にある様々な問題が見えてきた。検査や放射線や風評被害に関すること、それらは首都圏の中高生が持つ福島に対する印象を覆すことばかりであった。生徒達がまとめた提言は、福島の支援につながるだけでなく、次世代に対する責任ある行動を大人社会へ要求していると考えられることができる。

2. 目標と方法論

2-1. 目的

KJ 法によりあぶり出された論点を生徒達たちが分類し、さらに議論を深めることにより、問題点の核心を見出し、社会に対する提言としてまとめることを目的とした。

2-2. 方法

福島浜通りの高校生達の思いを共有したのち、一般参加者も参加した KJ 法により生徒達が論点を整理した。再び、ファシリテーターを含めて車座となり、問題解決の糸口を探るために議論を深めた。率直な意見交換が行われるように、どのような意見も否定されない雰囲気をつくりだしていた。

2-3. 生徒による提言と課題

未来に向かって考え、行動していくべきであるという福島浜通りの高校生の力強い発言もあり、前向きな対話が展開された。議論は大きく 3 つの意見にまとめられた。(1) 甲状腺検査を実施するにあたって年代に合わせた説明が必要である。しかし、難解な語句を用いて説明をする傾向がある専門家ではなく、学校教育でわかりやすい説明をしてほしい。(2) 同様に、放射線についても学校教育で実施するべきである。(3) 一度つくられてしまった風評を変えるには大変な努力を要する。今の福島の情報積極的に発信していくことやメディアも責任ある姿勢で継続的な情報発信をしてほしい。

3. 結論

上記 3 つの提言に対して、学校教育はどのように応えることができるのか。学校教育の重要性を改めて認識した。問題意識を持つとする姿勢や課題を解決しようとする意欲を育むためにも、地域を越えて対話する場の提供や専門家と連携して確かな知識を身につけさせる機会を作り出す努力が必要である。

* Chieko Nakayama¹, Natsumi Kimura² and Tetsuo Sawada³

¹ Kanagawa Univ. High, ² Tohoku Univ., ³ Tokyo Tech.